

## Ⅱ がん教育を効果的に進めるために

### 1 教育課程の編成及び実施における教職員の共通理解

学校においては、教育の目標が達成されるよう、子どもの心身の発達に応じて体系的な教育が組織的に行われなければならない。そのためには、個々の教師の取組だけでは効果的と言えず、教職員がそれぞれの役割に基づいて、組織的かつ計画的な取組が必要である。

Q

具体的な取組としてはどのようなことが考えられるの？



A



- 年度当初の職員会議等でがん教育について周知するなど、情報を共有します。
- 全ての教職員の共通理解のもと行います。
- 児童生徒の発達や状況に応じて、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行う必要があります。

【連携（例）】

- ・学校だより、保健だより等の活用及び保護者会等での情報提供、啓発活動
- ・授業参観の実施や行事等の実施
- ・学校保健委員会等での情報提供、協議
- ・PTA 活動における講演会、研修会等の実施
- ・保健所、地域医療機関等への相談等
- ・中学校区における情報共有と行動連携の推進

### 2 教科横断的視点に立った各教科等の関連を図った指導

がん教育の実施にあたっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、学習指導要領の総則を踏まえ、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。学校の教育活動全体でがん教育に取り組むにあたっては、子どもの健康への関心をより高めたり、健康に対する知識を習得したり、思考力・判断力・表現力を育成したりするためにも各教科が相互に関連を図った指導が必要である。

Q

指導にあたっては、どのようなことに留意すればよいのですか？



A



- 児童生徒が「何を学ぶか」という学習内容の在り方に加えて、「どのように学ぶか」という学びの過程に着目してその質を高めることにより、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにしていくことが重要です。
- 各教科等の目標を正しく理解し、関連を図った指導をします。

### 3 家庭及び地域の関係機関等との連携

家庭や地域住民等に適切に情報発信し理解や協力を得たり、学校への意見を的確に把握して教育活動に生かしたりすることが大切である。そのためには、「学校だより」「保健だより」等、学校から情報発信する機会をつくり、連携して進めていくことが必要である。